

数学科 2年

どちらの的があたりやすいか説明しよう（式の計算の利用）

担当 高木博也

【活動の目標】

形の異なるダーツの的のあたりやすさについて、的の面積に着目し、数や文字を用いてその面積を比較する活動を通して、的の面積が等しいことを見出し、あたりやすさは同じであることを筋道を立てて説明できるようにする。

【 問 い 】

- ・どちらの的があたりやすいだろうか（問いの工夫Ⅰ）
- ・的の面積を比べると、どちらがあたりやすいか（問いの工夫Ⅱ）

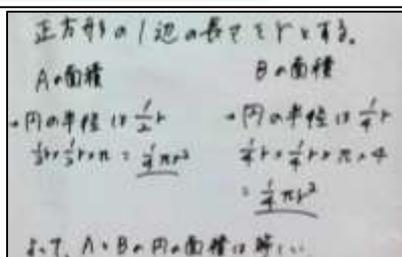
今回 ICT を活用した場面	従来 の 活動
A1 教員による教材の提示 導入において、問題を提示する。	用紙に拡大印刷していた。
B1 個に応じる学習 前時までの授業の黒板の写真を classroom に記録し、いつでも振り返ることができる環境を設ける。	ノートを振り返らせていた。
C1 発表・話し合い グループで 1 枚のホワイトボードに考えをまとめ、それを写真に撮り、ドライブに投稿する。投稿された写真をもとに、考え方を発表したり共有したりする。	ホワイトボードを黒板に貼り、発表していた。

【資料】

①振り返り用の板書写真など



②設定したドライブと投稿した写真



【ICT 機器を活用する良さ】

- スムーズに問題を提示することができる。また、適応問題など、新たな問題を提示する際も、速やかに提示できる。
- 板書やホワイトボードの写真を classroom に記録しておくことで、知識や考え方を振り返ることができる。
- ドライブを活用することで、手元の端末を使い、考えを比較することができる。また、データとして残すことができるため、単元の振り返りでも活用することができる。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・ホワイトボードに記入して投稿完了するまで、グループにより時間差が生じる。
 \Rightarrow 考えを比較したり、多様な考えをまとめたりする際に、時間がかかる班があると考えられる。また、ICT 活用の技量の差があると考えられる。
 \Rightarrow 考える時間とまとめる時間を確保する。また、誰でも ICT を活用するスキルを身に付けるため、役割分担を行う。